

高度浄水処理施設の運転結果を報告します

安全でおいしい水をつくる 高度浄水処理施設

夏は川の水が少なくなり、水質が悪化します。また、豪雨時に市内から中ノ口川への排水を行う「萱場排水機場」の排水口が取水口に近いことから、排水機場稼働時の水質が心配されていました。

しかし昨年六月、「高度浄水処理施設」が戸頭浄水場に設置され、より安全でおいしい水の供給が可能となりました。高度浄水処理施設は、粒状活性炭の吸着力を利用して浄水中に含まれるトリハロメタンや臭気物質、農薬、有機化合物などを吸着し、取り除くことができます。

昨年、萱場排水機場は六月の完成から七回稼働。その間の浄水場の運転は、中ノ口川からの取水を停止するなど、排水の直接の影響を避けていました。また、排水機場の運転が長時間に及ぶ場合は中ノ口川からの取水を開始し、高度浄水処理施設の活性炭処理によって、安全でおいしい水を送り続けました。

今年七月七日、萱場排水機場は約三時間稼働して市内からの排水を行いました。高度浄水処理も連続運転を行いました。その日採水した水で水質検査を行った結果、下表のとおり安全な結果が出ましたので、お知らせします。

取水口原水(河川水)と活性炭処理のトリハロメタンの比較表

検査項目(消毒副生成物)	取水口原水(生成能)	活性炭処理水	基準値
クロロホルム	0.049	0.010	0.06以下
ジブモクロロメタン	0.002	0.001未満	0.1以下
ジブモクロロメタン	0.011	0.004	0.03以下
ブromoホルム	0.001未満	0.001未満	0.09以下
総トリハロメタン	0.062	0.014	0.1以下

採水日:平成12年7月7日 単位:mg/L

安全でおいしい水を安定供給するために

水道施設の維持管理

水道は、市民生活や都市活動に不可欠な都市基盤施設であり、安全で安心できる水を供給するため、一日も休むことができない施設です。

このため、水道施設には、継続的な維持管理と計画的な施設改良が必要で、現在計画されている事業としては、「地震時に弱い、石綿管の入れ替え事業」「本支管の改良事業」「老朽化した浄水場施設の整備事業」「下水道工事の進捗よくに合わせる」

実施する水道管移設改善工事業「などがあります。」

いずれの事業も重要であり、多大な投資を必要とするため、その実現には財政基盤の強化が急務とされます。施設の更新が大きなウエイトを持つことになる中で、日常は効率よく、コスト削減が可能な範囲での維持管理に努め、施設の寿命も延ばしていくように努力していきます。

水道水源の確保

川に挟まれた白根市では水は豊富にあると思われがちですが、今後、供給量が増えた場合には、対応できない可能性があるのが実状です。

市は、国や県の指導の下、信濃川・阿賀野川の両水系から取水している各水道事業体と「両水系水質保全連絡協議会」を組織し、水質保全の監視などを行っています。両水系において、将来にわたる安定供給のための水量確保は「清津川ダム」の建設以外ほかに水源がありません。清津川は南魚沼・中魚沼地方に位置し、信濃川に合流する一級河川です。ダムが建設されるまでは不安定な水利用となり、渇水時には給水制限をすることになるなど、市民に不便を掛けることも予想されます。

農業用水の残水利用の可能性や、新規水量の調整について関係機関と協議するなど、今後も水量確保につ

いて模索していきます。

これからの水質管理

浄水場では、毎日一回の原水河川水・飲料水の水質検査と残留塩素測定、月一回の原水調査、そのほか水質検査機関への検査委託などを行っています。

近年、新たな汚染物質に対する水質管理が求められるなど、より高度な浄水処理が必要とされています。ダイオキシン類などは、水道事業だけでは防ぐことができない問題で、社会全体での連携した取り組みが必要となってきています。

ダイオキシン対策

ダイオキシンは、大気中や土壌中に広く存在します。量は非常に微量で、通常の生活では健康に影響は生じません。それでも、多くの人が不安を抱えているのが実状です。

環境庁は今年一月、ダイオキシンの河川などにおける水質環境基準を一ピコグラムに設定、施行することを決定しました。一ピコグラムとは、一兆分の一グラムのことです。

水に溶けにくい性質のダイオキシンは、水中にある場合、浄水過程の沈殿除去によって基準値以下に除去できます。しかし、今後はダイオキシンについても、定期的な調査を行う予定です。

TOPICS

まちの話題



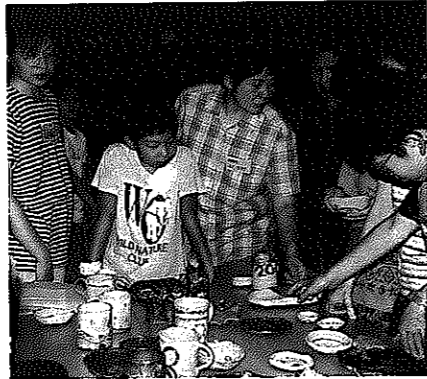
庄瀬地区民の親ばくを図る「第二十五回庄瀬地区夏季野球大会」が、八月十五日、庄瀬小・中学校のグラウンドで開催されました。この大会は、庄瀬地区野球連盟が結成された昭和五十一年から行われ、地区民はもちろん、地区にゆかりのある人ならだれでも出場できるというもの。お盆で帰省している人、家族や地域の人たちが一緒に野球場を楽しんでいます。今年庄瀬中学校野球部を含んだ七チームが参加。真夏の青空の下、好プレー、珍プレーの試合が展開されました。

夏空の下で親ばくを図る

第25回庄瀬地区夏季野球大会

傑作ぞろい、手作り陶芸

親子の広場「陶芸コース」



七月十七日から、白根学習館で、中央公民館主催の「平成十二年度親子の広場「陶芸コース」」が行われました。

四十一組の親子が、月・火・水・金曜日の四コースに分かれて陶芸に挑戦。指導には、市内で活動する九つの陶芸グループのメンバーが担当して当たりました。

八月二十三日には、完成した作品を並べて全員で品評会。「焼くと小さくなる」と言われたが、思ったより大きく出来て良かった。「きれいな色になってうれしい」などとみんな満足そうに話し、作品を大切に包んで持ち帰っていました。

ゆっくり、のんびり川下り

リバーウォッチング・イン・中ノ口



八月二十日、楽しもってまつり夏の陣の一環として、茨貫根地区公民館主催の「第三回リバーウォッチング・イン・中ノ口」が行われました。参加者は約百十人。十三隻のいかだが、中ノ口川の両郡橋付近から戸頭頭首工までの約六キロメートルを、約三時間半をかけて下りました。

また、同地区区長会では、この川下りのイベントが定着してきたことなどから、(財)自治総合センターの宝くじ事業助成金二百五十万円をEポート二隻を整備。このEポートの進水式も併せて行われました。

新潟県知事賞最優秀賞を受賞

農村アメニティーにいだ推進協議会

住みよい生き生きとした農村づくり活動を表彰する「第十五回農山村アメニティーコンクール」が、八月十日、新潟ユニゾンプラザで開かれ、農村アメニティーにいだ推進協議会が知事賞最優秀賞を受賞しました。

これは、新飯田地区農村公園の建設に当たり、同協議会が中心となって行われたワークショップ(住民が自由に意見を出し合い、公園計画を作る集会)活動や、地区住民で管理推進協議会を組織して公園管理を行っていることなど、積極的な取り組みが認められ表彰されたものです。